

## 一人六甲全山縦走大会

令和2年3月21日

旗振支部 林 洋治

1月に始まったコロナ騒動。対岸の火と違っていたのに、猛火は全世界を巻き込む大騒動。そのためエントリーしていたマラソン大会などすべて中止となり、我がヒヨコ登山会の六甲全山縦走大会も延期。私にとって加齢とともに体力が低下している中、この大会の踏破が体力測定の指標となっているという思いもあり一人挙行。



3月22日の予定を天候予報から21日が絶好の山歩き日和ということもあり実行。当会本番の出発時刻に合わせ、ゴールの宝塚に18時着を予定した。家を5:35分出発。旗振山着6:05。同山から少し黄砂に霞んだ素晴らしい日の出。

横尾  
山を  
7:05  
分と順  
調に通  
過、こ  
の須磨



アルプスの特異な景観は何時訪れても素晴らしい。もう半世紀前、私が神戸に就職し、同期入社の人に初めて連れてきてもらった。その時、この馬の背にはガードの鎖があり、恐る恐る通過したのを毎回通るたびに思い出す。現在、この近くに住んでここをトレーニングの場としていることもあり、もう数百回ぐらい通過しただろうか。

東山、禅昌寺尾根を順調に通過し、高取山に8:33分着。朝食から4時間、お腹もすいてきた

のでここでおにぎりタイム。今日の食料は、おにぎり3個、餡パン、大福3個。高取山(8:40)を出発し、予定通りぴったり1時間で菊水山麓(9:40)。休憩2分、この菊水の登りも体力のバロメータ。菊水着10:00丁度、所用時間18分でますます。



ここまでの道中も人は少なかったが、菊水山頂も4、5人と少ない。それに暑い、半袖でも暑い。私は、元来一人歩きが多いのだが、このように一人縦走をしているとついついタイムを計り、まるでトレイルのレースをしているかのよう。他人から見るとなんでそんなに急ぐ、急いで何が楽しいねん！とチャチャを入れられそう。が、私にとってはこれが楽しい。周りの景色も十分楽しんでいきます。



大龍寺赤門を通過し、市ヶ原(11:25)でトイレ休憩し、いよいよ今日の最難関の天狗道へ。天狗道は3座を越え4座目が摩耶掬星台。距離が長く、いつも苦しんだものだ。何回も通っていると何とか折り合がつかってきた。焦らず急がずマイペースで2座目の学校林道への分岐で一息入れて、気合を入れ直す。

掬星台の少し手前が距離的には縦走路の中間地。掬星台までの西半分と東半分ではその疲労度に雲泥の差がある。西は独立峰が多く、東はなだらか

それに一軒茶屋から先は下り。初めての人がいると、ここまでは全体の距離の半分だが、ここから先のシンドさは今までの半分以下だと勇気づける。



掬星台着(12:42)、予定タイムより30分も早い。さすがに掬星台でもいつもと比べ人出は少ない。この時期、あまり見るものはないがこの桃の花が満開なので、この木の下で2回目のおにぎりタイム。と言いながらも5分少々で出発。相変わらずの早飯食いです。

アゴニー坂、三国池下、丁字ヶ辻を過ぎ六甲山ホテル前に差し掛かると、なんとホテルを解体中。私にとっては思い出深いホテルだったが、あ〜もうそんな年かとホテルの老朽化と自分の年を振り返ってみる。ちょっとセンチに、いやいやここで思い出を振り返っている余裕はない。先を急ごう。



チェックポイントの記念碑台下通過(13:55)。



そうそう、小学校を過ぎたあたりにカレー屋さんがありいただいたことがある。

大正、昭和初期からだろうか古いお店で孫の方が後を継いでいたのだが、そのお店もいつの間になくなってしまっって残念。



往時の登六庵

それにもう一点、六甲ケーブル近くに職場の古い保養荘があり、若い者同士で忘年会などして神戸の夜景を楽しんでいたなあ〜と。一人で歩いていると昔のことが取りとめもなく思い出されてノスタルジックな気分。

一軒茶屋(15:10)を過ぎ、いよいよ塩尾寺への下り。ここ通る時、もう少し展望が楽しめるように間伐してもらいたいものだ。



もうだいぶ昔、大阪平野を見渡せるこのビューポイントだったかな、大きなお月さんが上るのを感激しながら観たことがある。あれはきっと中秋の名月だったに違いない。最近、明るいうちに着くことばかり考え、お月さんを観ることがない、などとブツブツ。



塩尾寺通過(17:13)。塩尾寺まで来たらゴールしたみたいな気分になり気力が抜ける。だがここから宝塚駅まで距離が長く、重たい足を引きずりながらなので結構辛い。予定より30分早く宝塚駅(17:30)ゴール。



当会の縦走大会は、秋へ延期となっている。それまで体力を保持し、コロナウイルスに打ち勝って大会に臨もう。